



---

# CSR Report 2015

---

UDトラックス株式会社

---

# CSR Report 2015

## 編集方針

UDトラックスは、持続可能な社会の実現に向けて、当社が果たすべきCSR(企業の社会的責任)に対する考え方や取り組みをステークホルダーの皆様にご理解いただくために、本年度から「CSRレポート」を発刊することとしました。初年度となる2015年度版は、ボルボグループのCSR活動の方向性を示す「サステナビリティアプローチ」(p5)を踏まえた「特集」を設けるとともに、報告パートではUDトラックスが重視する7つの活動テーマごとに取り組みを紹介しています。

### 報告対象範囲

UDトラックス株式会社を対象としていますが、一部項目では、UDトラックスブランドとしてボルボグループが展開している活動についても報告しています。

### 報告対象期間

2014年度(2014年1月1日～2014年12月31日)。ただし、一部、それ以前の経緯やデータ、2015年度の活動、将来の活動予定も報告しています。

### 発行年月

2015年5月

## 目次

トップメッセージ	02
UDトラックスについて	03
CSRマネジメント	05
特集1	07

## トラック輸送を巡る「三大課題」への解答。

変動する燃料費、重大化するトラック事故、そして不足するドライバー。トラック輸送を巡る三大課題へ、「クオン」という解答を。



## 特集2

11

## 「新興国の成長」を支える信頼性の高いトラックを。

本格的な大型トラックをベースに、発展・変化する輸送事情に柔軟に応える「クエスター」の可能性。



## ハイライト 2014

13

CSR活動報告①:さらなる品質向上へ

15

CSR活動報告②:お客様満足の向上をめざして

17

CSR活動報告③:責任ある調達の実践のために

18

CSR活動報告④:安全性を追求して

19

CSR活動報告⑤:従業員の力を活かすために

21

CSR活動報告⑥:地域社会の一員として

23

CSR活動報告⑦:環境経営の推進に向けて

25

環境データ

29



## 社会インフラの一翼を担うという自覚と責任のもと、 持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

UDトラックス株式会社は、1935年、日本ダイゼル工業株式会社としてディーゼルエンジンの製造からスタートし、以来一貫して商用車メーカーとして事業に従事してまいりました。創立から80年を迎える今日では、大型トラックを主軸に、中型・小型トラックとバリエーションを広げ、日本国内だけでなく海外の市場へも商品を供給しています。創業者である安達堅造がめざしたのは、「堅牢なトラックを造る」ことでした。信頼性と耐久性を追求したそのこだわりは、今日においても脈々と受け継がれています。

2007年にボルボ・グループの一員となってからは、グローバルなビジネスに日本のものづくりを融合させてきました。日本が誇る精緻な生産システムは、ボルボ・グループの製造品質の向上に寄与しています。現在では、ボルボ・グループの海外生産拠点においてもUDトラックス独自の生産および品質管理手法が導入されています。また、車両走行時の排出ガスに含まれるNOxとPMを大幅に低減し、同時に燃費の向上を実現する最先端技術を開発し、世界に発信しています。

物流は社会・経済の血管に例えられることがあります。高度なロジスティクスに支えられた私たちの生活は、もはや物流なしでは成り立ちません。そして、国内輸送の91.4%\*はトラックによるものです。私たちは、私たちの商品が社会インフラの一翼を担っているという自覚と責任をもつとともに、商品だけでなく企業としての存在そのものが持続可能な社会に貢献できるものでありたいと願っています。

このたび、UDトラックスとして発行する初めてのCSRレポートをお届けいたします。このレポートを手にとってくださった皆様一人ひとりに心よりお礼申し上げます。

今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

UDトラックス株式会社  
代表取締役社長

村上吉弘



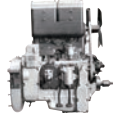







\* 輸送機関別分担率トンベース・平成24年度国土交通省統計

UDトラックについて

# 世界品質の トラック輸送ソリューションを。

1935年に創立したUDトラック株式会社は、80年にわたり商用車メーカーとしての歴史を刻んできました。創業者である安達堅造がめざした堅牢なクルマづくりは、「UD」のマークに象徴されるUltimate Dependability——「終わりなき究極の信頼」というUDトラックブランドのコア・バリューとして受け継がれています。現在は、ボルボ・グループの一員として、UDトラックブランドのトラックの製造・販売をはじめ、ボルボおよびボルボ・ペンタブランドの日本拠点としての機能を担っています。

## UDトラックの沿革

- |       |   |   |
|-------|---|---|
| 1935年 | ディーゼルエンジン製造を目的とし、埼玉県川口市に日本ディーゼル工業(株)を創立 |   |
| 1938年 | 当社初のディーゼルエンジン完成                         |      |
| 1939年 | ディーゼルトラック1号車が完成                         |     |
| 1942年 | 鐘淵ディーゼル工業(株)に社名変更                       |   |
| 1946年 | 民生産業(株)に社名変更                            |   |
| 1950年 | 民生ディーゼル工業(株)に社名変更                       |   |
| 1955年 | オリジナルの「UDエンジン」誕生                        |    |
| 1958年 | 日本初積載量10トン超え「6TW」誕生                     |    |
| 1960年 | 日産ディーゼル工業(株)に社名変更                       |   |
| 1962年 | 上尾工場の操業開始                               |   |
| 1975年 | 中型トラック「コンドル」誕生                          |    |
| 1990年 | 低排出、快適、安全を向上させた「ビッグサム」誕生                |    |
| 1996年 | 中国に合弁会社「杭州東風日産ディーゼル汽車有限責任公司」を設立         |   |
| 2004年 | フラッグシップ大型トラック「クオン」誕生                    |  |
| 2006年 | ボルボ社が資本参加                               |   |
| 2010年 | UDトラック(株)に社名変更                          |   |
| 2013年 | 新興国市場向け新大型トラック「クエスター」誕生                 |  |
| 2014年 | 販売会社UDトラックスジャパン(株)を合併                   |   |



## 会社概要

会社名 UDトラックス株式会社

創立 1935年12月1日

代表者 代表取締役社長 村上吉弘

所在地 埼玉県上尾市大字壺丁目1番地

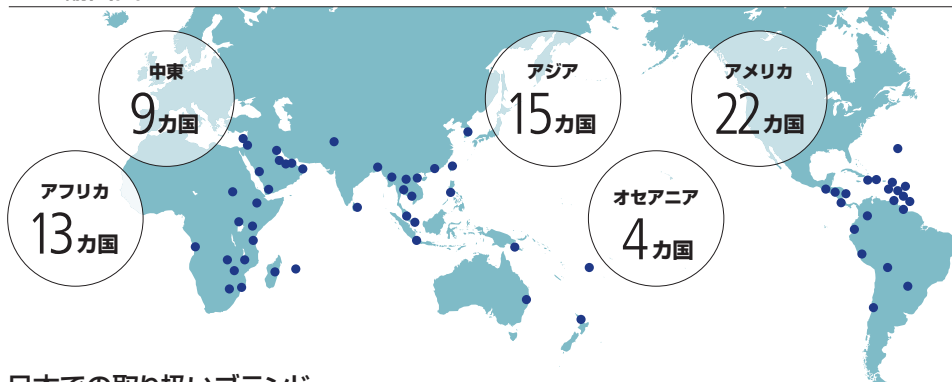
事業所 本社・上尾工場／支社(東北、関東、中部、北陸、近畿、中四国、九州)およびディーラー拠点全国137カ所／川口トレーニングセンター／羽生工場／群馬部品センター／UDトラックス・ボルボ東京共同オフィス(2015年4月1日現在)

資本金 750億円

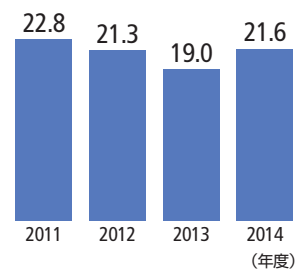
従業員数 6,869名(2014年12月末日現在)

主な事業 UDトラックスブランドの大型・中型トラックの製造、販売／小型トラックの販売／ディーゼルエンジンの製造、販売／自動車用部品の製造、販売／トラック、バス、補修部品などの販売、整備／ボルボおよびボルボ・ペンタブランド製品の輸入、販売

## 主な輸出国



UDトラックスブランドの世界販売台数(単位:千台)



## 日本での取り扱いブランド



### UDトラックス

UDトラックスブランドの大型トラック「クオン」、中型トラック「コンドル」、小型トラック「カゼット」および新興国専用モデル「クエスター」を展開。



### ボルボ・トラック

ボルボブランドの大型トラックの輸入・販売。主な製品は、ボルボFH 4×2、6×4トラクターおよび6×2カーゴ。



### ボルボ・ペンタ

ボルボ・ペンタブランドの船舶、産業用エンジンの輸入・販売。主な製品はインボードおよびIPSマリンエンジン、発電機用エンジン。



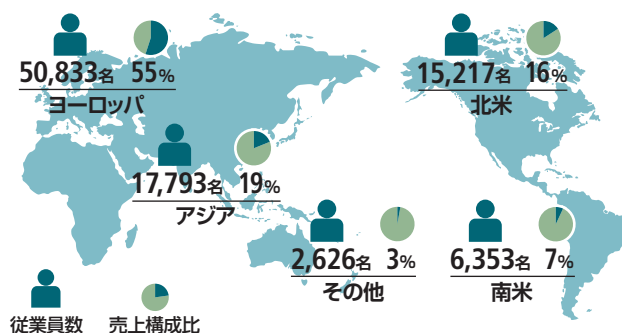
### ボルボ・コンストラクション・イクイップメント

ボルボブランドの建設機械の輸入・販売。主な製品はホイールローダ、アーティキュレートダンプトラック。

## ボルボ・グループについて

### 世界有数の大型商用車、ディーゼルエンジンメーカーとして

UDトラックスは、トラック、バス、建設機械、船舶および産業用エンジンで世界有数の規模を誇るボルボグループ(本社スウェーデン)の一員です。ボルボグループは、世界19カ国の生産拠点や190を超える国と地域の販売拠点で、約10万名の従業員が、世界中のお客様に輸送ソリューションを提供しています。



(2014年12月末日現在)



# 品質・安全・環境 「持続可能な輸送」に貢献する 3つの価値観を企業理念に。

## CSRの基本的な考え方

### 「企業理念」と「サステナビリティ・アプローチ」を基盤に

ボルボ・グループは、社会・経済・環境側面における責任ある事業活動を通じて「持続可能な輸送ソリューションの世界的なリーダー」となることをビジョンとしています。

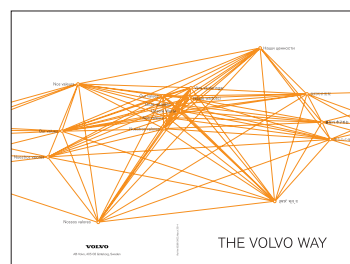
このビジョンを実現するために、ボルボ・グループは、「品質」「安全性」「環境への配慮」を企業理念と位置づけています。そして、国連グローバル・コンパクトなどの国際的な行動規範やステークホルダーとの対話を重視した活動を推進するとともに、「コンプライアンス」や「お客様満足」「サプライチェーンマネジメント」「人権・労働慣行」など、CSRを果たす上で重要な課題に関する原則や行動規範をまとめた「ボルボ・グループ行動規範」「ボルボ・ウェイ」を定め、世界中のグループ会社

で共有しています。

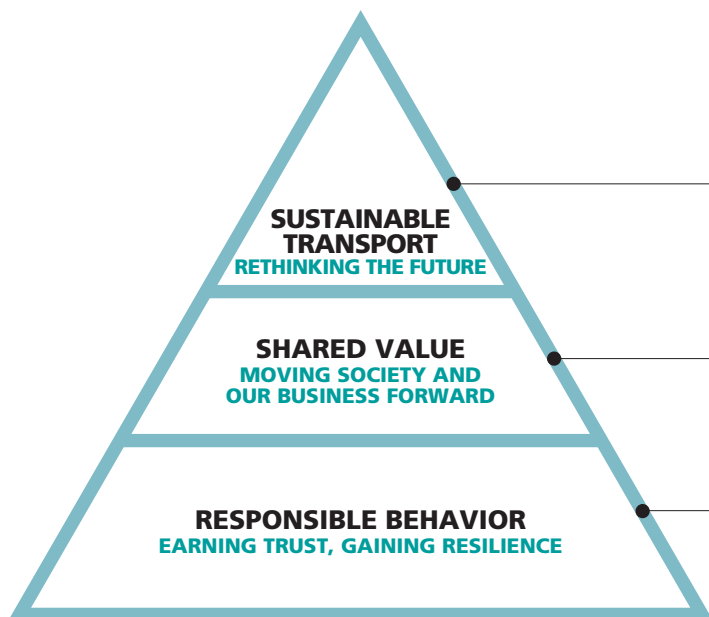
さらに、多種多様な活動をより効果的に推進していくために、ボルボ・グループのCSR活動の方向性を示す「サステナビリティ・アプローチ」を定め、ステークホルダーとともに成長する新たな価値創造をめざしています。



ボルボ・グループ行動規範



ボルボウェイ



### サステナビリティ・アプローチ

#### 持続可能な輸送 —— 未来に貢献

将来の社会ニーズに応えるための技術・商品開発や、より安全で快適な社会を実現するための先進技術の活用などを推進。

#### 価値の共有 —— 社会とボルボ・グループのビジネスの双方に価値を創出

ボルボ・グループの技術や知見をもとに、ステークホルダーや社会とともに「輸送」に関わるさまざまな課題を解決。

#### 責任ある行動 —— 社会から信頼を得る基礎づくり

コンプライアンスやリスクマネジメント、サプライチェーンマネジメント、人権への取り組みなど、CSR活動の基盤となるコーポレートガバナンスを強化。





## UDトラックスのCSR活動

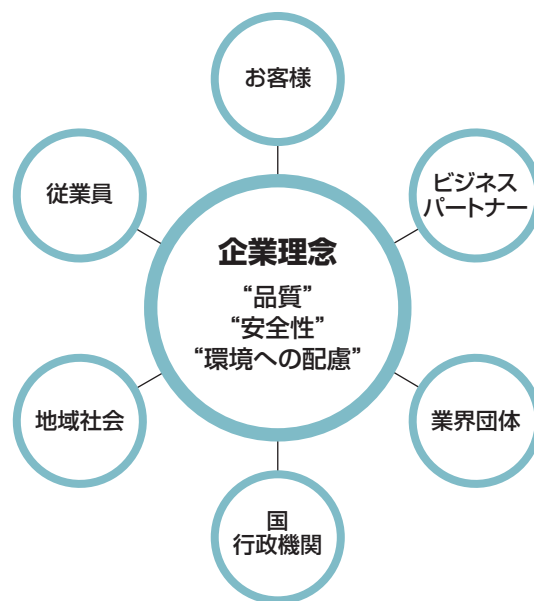
### 世界のボルボ・グループと連携して日本市場に根ざしたCSR活動を推進

UDトラックスは、ボルボ・グループの一員として「品質」「安全性」「環境への配慮」を企業理念に、「ボルボ・グループ行動規範」「ボルボ・ウェイ」を踏まえたさまざまなCSR活動を実施しています。

活動にあたっては、ボルボ本社をはじめ、世界のグループ会社と連携して「サステナビリティ・アプローチ」に則した活動事例やマネジメント手法などの情報を共有するとともに、ステークホルダーの声に基づく日本市場に根ざした活動を推進しています。

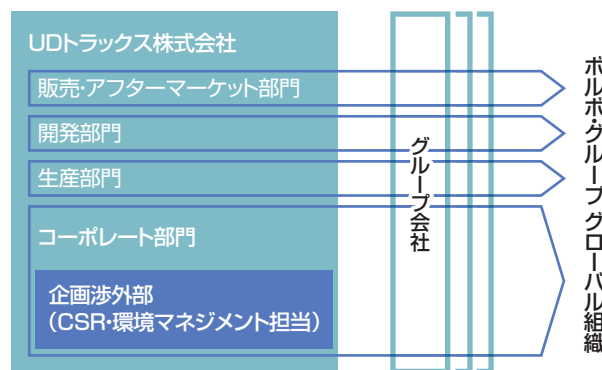


#### UDトラックスの企業理念とステークホルダー



#### CSRマネジメント体制

国・行政機関、業界団体との折衝などを担当する企画渉外部のCSR・環境マネジメント担当が「サステナビリティ・アプローチ」に則った活動やISO26000に基づく取り組みを企画・推進しています。また、全社で活動を展開していくために、各部門にCSR担当者を任命。定期的に会議を開催し、組織横断的な情報の共有や具体的な活動の企画・検討を行っています。さらに、トップマネジメント会議において取り組みの進捗を報告し、経営層の指示・判断、承認を受けています。



#### コンプライアンス

不正防止や公正な競争、適切な税務、利益相反の禁止などに関する基本方針を定めた「ボルボ・グループ行動規範」に則った事業活動に努めています。競争法や贈収賄防止法をはじめとする法規および関連するボルボ・グループの内規についての社内研修や、全事務系と管理職従業員を対象としたeラーニングなど、適宜必要な教育を継続的に実施しています。また、コンプライアンス違反のおそれがある状況に適切に対応できるよう、内部通報システムを社内に整備しています。

#### リスクマネジメント

「リスクマネジメント委員会」を設置して、災害発生時のリスクマネジメント管理体制の強化を図っています。対象となるリスクは、大規模自然災害や火災、感染症、情報漏洩、人事労務リスクなどの業務遂行上のリスクで、とくに大規模地震および火災を事業継続に影響を及ぼす重要なリスクと位置づけ、防災組織による定期的な訓練および対応計画の見直しなどを実施しています。現在は、ボルボ・グループのセキュリティ・ポリシーを反映したリスクマネジメント計画および事業継続計画の策定を進めています。



特集1

# トラック輸送を巡る 「三大課題」への解答。

変動する燃料費、社会に大きな影響を与えるトラック事故、そして業界全体で不足するドライバー。トラック輸送を巡る三大課題の解決へ、「クオン」という解答を。



フラッグシップ大型トラック

## Quon

2014年5月にリニューアル発売した大型トラック「クオン」は、日本市場を中心とする先進国市場向けのフラッグシップトラックです。最新のエンジンや電子制御式トランスミッションなどによって優れた発進・加速性とともに効率的で快適なエコドライブを実現します。





トラック輸送を巡る課題 ①

## 変動する 燃料費



トラック保有総費用に  
占める燃料費

# 30%

2014年夏以降の原油価格の下落や円安によって、トラックの燃料となる軽油価格は一時的に下落しましたが、先行きは不透明なままです。こうしたなか、トラック保有総費用における燃料費負担が30%にもものぼるトラック輸送事業者の99%は中小企業が占めることから、燃料費の高騰によって経営の危機に直面する事業者も少なくありません。こうした事業者が増加していくと、安定的な輸送サービスが提供できなくなり、国民生活にも大きな支障が生じるおそれがあります。

“クオン”という解答 ①

# 燃費性能、 「10%向上」



UDトラックは、2013年の東京モーターショーにおいて、従来の「クオン」に比べて燃費10%以上の改善を目標とする実験車両「クオン・フューエル・デモンストレーター」を出展しました。会場では、ダウンサイジングエンジンやエアロダイナミクス設計、従来の省燃費運転支援システム「燃費王」をさらに進化させた「ADAS」などを活用して高い走行性能を維持しながら燃費を大幅に向上させるUDトラックの総合技術力に注目が集まりました。こうした技術をもとに、2014年にリニューアル発売したフラッグシップ大型トラック「クオン」は、目標達成に

向けた大きなステップとなる製品です。平成27年度重量車燃費基準を達成した最新のGH11/13型エンジンは、燃費・環境性能を改善するとともに優れた発進・加速性を実現。12段電子制御式トランスミッション「ESCOT-V（エスコットファイブ）」は、最適なタイミングでのギアチェンジを実現し、効率的で快適なエコドライブを支援します。さらに、エコノミーモードや急加速を制限するアクセラレーションリミッター、下り坂や惰性走行時により燃料消費を抑える技術などによって省燃費・燃費効率の向上に貢献しています。

現在稼働している日本のすべての大型トラック約60万台が4%の燃費改善を達成すると…

年間約 **6億** リットル分  
の燃料を削減※

燃料コストを年間  
約 **850** 億円低減※

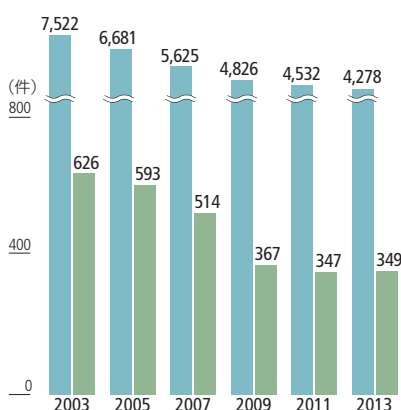
約 **150** 万トンのCO<sub>2</sub>を削減※

※試算方法:クオンCD(6×2カーゴモデル)、ESCOT-V搭載の平成27年度重量車燃費基準値、2014年4月30日現在の軽油の国内平均価格、年間走行距離10万kmで算出

### 死亡事故件数の推移

資料:警察庁交通局「交通統計」

■全死亡事故件数(第一当事者)  
■営業用トラックによる死亡事故件数(第一当事者)



トラック輸送を巡る課題 ②

## 「安全性向上」という永遠の課題



トラック輸送事業者にとって、“安全確保”はいつの時代も経営の根幹であり、最優先課題です。とくに、トラックの事故は重大事故に結びつきやすく、道路インフラや物流活動への負荷など、社会的にも大きな影響を与えます。こうしたなか、個々の事業者はもとより、国と業界が一体となった安全対策が進められており、トラックによる事故は、この10年余りの間で大幅な減少傾向にあります。UDトラックもまた、最新技術を活用してお客様の安全確保、稼働率向上に貢献しています。

“クオン”という解答 ②

# 「トラック安全性能」に、革新を

「安全性」を企業理念の一つに掲げるUDトラックは、事故を予防し、リスクを限りなくゼロに近づけるための革新的な安全技術を開発、搭載することで、お客様の安全確保と稼働率の向上をめざしています。リニューアルした「クオン」では、ミリ波レーダーにより前方車両への衝突リスクを軽減させる「トラフィックアイブレーキ」の一つである衝突被害軽減システムが、最新の保安基準に適合する先進緊急ブレーキシステム「AEBS」へと進化しました。また、ドライバーが意図せず走行車線から外れた場合にブザーで注意を促す車線逸脱警報装置

「LDWS」も搭載。さらに、万一衝突してしまった場合でも、高剛性キャブやドアの変形を抑えながら衝撃を緩和するサイドドアビーム、乗員保護性能をより向上させるプリテンショナー付シートベルト、膝を守るニープロテクター、SRSニーエアバッグなどの各種SRSエアバッグ、衝撃吸収タイプのステアリングホイールとステアリングコラムなどのパッシブセーフティ機構がドライバーの被害を軽減します。また、乗用車に衝突あるいは衝突された場合でも車両前後部への突入防止システム「FUPD・RUPD」が乗用車のドライバーと同乗者へのリスクを軽減します。

## AEBS

先進緊急ブレーキシステム

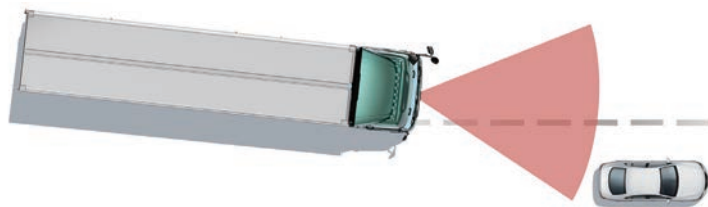
ミリ波レーダーを用いた車間距離検出装置により前方車両への衝突リスクを検知すると、警告灯とブザーの両方で注意を促します。ドライバーが回避行動を取らない場合にはブレーキが自動作動し衝突を回避、もしくは衝突時のダメージを軽減します。さらに、機能解除操作後に機能復帰を忘れた状態で走行するのを防止するために自動復帰機能を装備し、有効かつ確実な作動が可能になるような工夫を施しています。



## LDWS

車線逸脱警報装置

より安全なドライビングを可能にするLDWSは、ドライバーが意図せず走行車線から外れた場合に、ブザーで注意を促すシステムです。車載カメラが前方の走行車線をモニタリングし、時速60kmを超えて走行中に車線ラインを逸脱した場合に警報を発します。

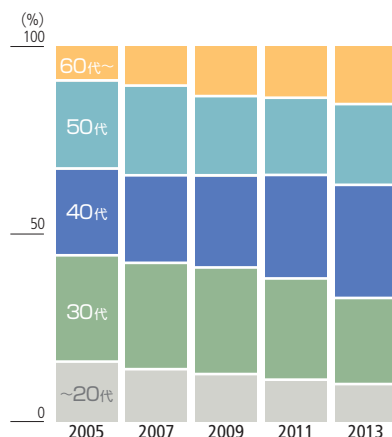




### 道路貨物運送業就業者の年齢層別構成比の推移

※ 就業者:自営業主、家族従業者、雇用者  
(役員、臨時雇、日雇を含む)

資料:総務省「労働力調査」より作成



### トラック輸送を巡る課題 ③

# 不足する トラック ドライバー



トラック輸送業界では、景気の回復やインターネット販売の増加によって輸送量が増える一方で、頻繁な荷の積み下ろしや長時間労働の常態化などの負担増加などから、若者のトラックドライバー離れが進み、中高年の男性労働力に大きく依存しているのが実情です。人口動態なども踏まえると、将来的に深刻なドライバー不足に陥る懸念が高まるなか、国土交通省は、2014年をトラックドライバーの「人材確保・育成元年」と位置づけ、官民連携による取り組みを強化しています。

### “クオン”という解答 ③

# 誰もが快適に 運転できるトラックを



### 人間工学に基づくダッシュボード

コックピットを想起させるダッシュボードは、使用頻度の高いスイッチ類を手近に配置するなど、人間工学に基づいて設計。計器類の位置にも配慮し、操作性を極限まで追求。



運転席を、より快適で、より生産性の高い“職場”にしていくために、UDトラックスは、技術、デザイン、安全性の3つのアプローチを強化しています。独自の電子制御式トランスミッション「ESCOT-V(エスコットファイブ)」は、煩雑なギアチェンジが不要で、アクセルとブレーキ操作だけのイージードライブを実現します。また、人間工学に基づいて設計された運転席は、座り心地と操作性、そして遮音性能に優れた快適な空間を提供。さらに、追突や走行車線から外れた場合の危険を低減する先進の安全技術を採用しています。

### エアサスペンションを採用したキャブ

フレームに4点支持ワイドトレッドハイマウント式のエアサスペンションを装備。安定感のあるキャブは、快適なドライビングの基礎となるだけでなく、右左折時の横揺れも最小限に。さらに沈みこみ防止機構で、ブレーキ時にもキャブの安定を確保。

### 座り心地にこだわったシート

大型のヘッドレストと標準装備のエアサスペンション、そしてドライバーの体型に合わせて最適なドライビングポジションに調整できるドライバーシートが長距離走行時にも快適な座り心地を提供。





## 特集2

# 「新興国の成長」を支える 信頼性の高い トラックを。

本格的な大型トラックをベースに  
発展・変化する輸送事情に柔軟に応える  
「クエスター」の可能性。



### 新興国向け大型トラック

## Quester

「クエスター」は2013年、アジアなど新興国の幅広い産業の持続的な成長を担う大型トラックとして開発されました。新興国の多様な用途に対応する汎用性と世界品質とを併せもつプラットフォームを備えています。製造拠点となるタイの工場では日本のUDトラックスが誇る高度な生産技術を共有。製品の信頼性向上をリードしています。





## 新興国のために開発された 新たなプラットフォームを世界へ



産業が発展するためには、道路や鉄道、上下水道、送電網などの社会インフラの整備・拡充が不可欠です。なかでも、多種多様な荷物を輸送する道路交通網の整備やトラックなど輸送機器の充実、インフラ整備や生活の豊かさの向上に重要な役割を果たしており、新興国では、官民による活発な投資が続けられています。こうしたなか、UDトラックと中国・東風汽車集団股份有限公司の合併会社、東沃汽車有限公司(DONGVO TRUCK Co. Ltd.)

は2013年12月、長距離輸送や建設現場、鉱山開発など多様なニーズに対応するプラットフォームをもつ新興国向け大型トラック「クエスター」の販売を開始。これを機に、2014年には広東州広州市にある販売・整備拠点をリニューアルオープンしました。東沃汽車は、将来的には同様の拠点を150地域にまで拡大し、国内のどこでも2時間以内で高品質なアフターサービスを提供できる体制を整えていく計画です。また、他の新興国でも現地の販売会社と協働するなどして同様の取り組みを進め、世界経済の持続的な成長に貢献していきます。

## 世界に誇るモノづくりの技で 多国籍チームをリード



幅広い産業分野において、長期にわたって能力を発揮し続ける、頑丈で信頼性の高い、かつ燃費性能に優れた大型トラックを、競争力のある価格で提供する——新興国向けトラックならではの高いハードルをクリアするために、UDトラックブランドに関わる開発、認証、生産に至る総勢約400名にのぼるエキスパートが世界各地からプロジェクトに参加しました。その多国

籍チームのなかでもとくに注目されたのが、日本のメンバーのモノづくりの技——高度な生産技術力です。UDトラックは、世界のボルボ・グループ共通の生産システム「VPS」をベースに、ジャストインタイムを実現する生産プロセスや、長年の「カイゼン」活動で培ってきた熟練の技を体系化した独自の生産システムを各国のエキスパートとともに共有。細部へのこだわりとトータルな完成度ももち、優れたコストパフォーマンスを発揮する製品の実現に挑みました。

### CSR Column

#### “日本の職人技”を世界標準に——タイ工場での取り組み

日本から参加した100名超の技術者のミッションは、当社ならではの高い品質を維持しながら、効率的な車両組み立てラインを構築していくことです。そのためには、ボルボ・グループの生産システムに、UDトラックの生産システムのエッセンスを融合することが必要です。そこで我々が重視したのが、生産現場を支える“人”です。現場責任者である工長や従業員にカイゼンなどの考え方を浸透

させるために、日本の工長をタイに派遣するだけでなく、タイの工長を日本に呼んで研修を実施しました。また、考え方や方式を現場に定着させていくために、専用のトレーニングプログラムと評価システムを活用し、新人従業員の育成に取り組みました。こうした活動の結果、タイ工場では、“世界標準”ともいえるべき生産プロセスが生まれ、一体感のある生産現場が実現しました。



## 品質

### ISO9001認証の 取得に向けて

開発部門では、国際的な品質マネジメントシステムの認証であるISO9001の取得をめざしています。2014年度は、従業員の品質に対する意識向上のためにISO9001の基礎知識を含むトレーニングをスタートしました。生産部門では2002年度に取得し、以降継続審査を受けています。

### クオリティ・テクニカル・ カンファレンス2014 を開催

アフターマーケット品質の向上のために、ディーラーの整備スタッフのスキルアップを目的とした講習会を開催しました。メカニックやトレーナーなど、約250名が参加しました。

## 調達

### CSRの実行プロセス としての「調達」を推進

「責任ある調達」を実践するために、「高い倫理意識をもつ」「リスクを適切に管理する」「サプライヤーとの長期的な関係を築く」などを指針に、調達活動をCSRの実行プロセスの一つと位置づけています。一貫性をもった活動を推進するために、調達部が全社の調達活動をマネジメントしています。

## 安全性

### 最新の安全技術を導入

トラックに関連する交通事故の社会的な影響の大きさを踏まえ、UDトラックスでは長年にわたり最新の安全技術の開発に取り組んでいます。2014年発売の新型「クオン」には、法規の施行に先行して先進緊急ブレーキシステム「AEBS」と車線逸脱警報装置「LDWS」を採用しました。

### 安全運転講習会を 継続的に実施

販売部門では、お客様を対象に「安全運転講習会」を開催しています。2014年は、全国で153回開催し、3,164名のお客様が参加しました。



安全運転講習会の様子

# ハイライト 2014

## お客様満足

### 新製品試乗会を開催

5月、UDトラックスのフラッグシップ大型トラック「クオン」をリニューアル発売しました。お客様に製品がもつパフォーマンスを実感していただくために、新型「クオン」の試乗会を全国で開催し、安全性や操作・運転性などを確認いただきました。



試乗会の様子

### 市場ニーズを反映した機能を新製品に搭載

ボルボ・トラックは9月、主力の「ボルボFH」の新型モデルを発売しました。設計思想を根本から見直し、人間工学に基づいたキャブデザインへと大幅に変更することでドライバーの居住性や視認性、操作性を高めました。また、安全機能を重視する日本のお客様の声をもとに、助手席側の側方と後方の安全確認をサポートするデュアルビューモニターを標準装備しました。



ボルボFH



## 人材

### ダイバーシティと インクルージョンの 意識向上に向けて

多様性のある人材基盤と、全従業員がチームの一員として必要とされていると実感できる職場環境の実現をめざし、マネージャー向けトレーニングや全社イベントを開催しています。



社内啓発イベントでのコマ

### 安全な生産工場の取り組み

UDトラックス上尾工場は、従業員の安全教育に力を入れており、2009年から6年間休業災害ゼロを継続したことで、8月に厚生労働省無災害記録証5種を授与されました。

## コミュニティ

### 高齢者向けインターネット 体験会を実施

本社のある上尾市役所と協力し、2012年から地元の高齢者の方を対象に「インターネット体験会」を開催し、高齢者の方のインターネット情報へのアクセスをお手伝いしています。



インターネット体験会の様子

### 自動車整備専門学校で 技術トレーニングを実施

宮城県と山形県の自動車整備専門学校において、教員や学生に大型トラックの新技术に関するトレーニングを実施しています。教本だけでは得られない知識を、実際のエンジンなどを使用したトレーニングによってサポートしています。



技術トレーニングの様子

UDトラックスは、ボルボ・グループの「サステナビリティ・アプローチ」や社会的責任に関する国際規格、ISO26000に則った活動を展開しています。ここでは、2014年度の主なトピックスを紹介します。

## 環境

### ISO14001認証を 継続取得

国際的な環境の認証であるISO14001を、1998年度に本社・上尾工場が取得後、開発部門や関連会社でも2009年度までに取得を完了しました。2014年度の内部監査・外部審査においても重大な指摘はなく認証を継続取得しました。



ISO14001認証

### 燃料消費の改善

エンジンやトランスミッションなど駆動系の性能向上や走行状態のきめ細かな制御など、燃料消費を改善するさまざまな先行技術を積極的に採用することにより、2013年度販売実績では94.3%を超える車両が「平成27年度重量車燃費基準」で設定された目標燃費値を達成しました。2014年度もさらなる改善に取り組みました。

### 生産工場からの CO<sub>2</sub>排出量の削減を継続

生産工場から排出するCO<sub>2</sub>量について、「2013年度のCO<sub>2</sub>排出量については1990年度比39%の削減」を目標に取り組みを続け、結果1990年度比68.9%削減と目標を大きく上回りました。2014年度もこの状況を継続しています。

### エコドライブ講習会を 実施

2007年から行っている「エコドライブ講習会」を、2014年も全国182カ所で実施し、トラックドライバー3,103名が参加しました。



エコドライブ講習会専用のバスで講義を受ける参加者

# さらなる品質向上へ

UDトラックスは、「品質」を企業理念の一つに掲げ、ISO認証の取得を進めるほか、開発から生産、販売、アフターマーケットまでのすべての事業活動で品質の維持・向上に取り組んでいます。



## 品質マネジメント方針

### すべての事業活動を通じて「品質」を追求

お客様に高い満足度を提供するためには、常に優れた品質を備えた製品・サービスを提供し続けなければなりません。この認識をもとに、ボルボ・グループは企業理念の一つに「品質」を掲げています。そして、「お客様重視」「すべての従業員の積極的な参画」「プロセスアプローチと継続的な改善」の3つの行動指針をもとに、設計から生産、販売、アフターマーケットまでのすべての事業活動で品質の維持・向上に取り組んでいます。

## 品質マネジメントシステム

### ISO9001 認証の取得を推進

生産部門では、品質マネジメントシステムの国際的な認証であるISO9001を2002年度に取得しました。また、開発部門では、「ボルボ・グループ開発部門」としての認証取得をめざしています。定期的に審査を受けることでPDCA（Plan 計画→Do 実行→Check 評価→Act 改善）を確実に遂行し、さらなる品質の向上をめざしていきます。

## 主な取り組み

### 部門ごとに品質目標を設定し、業務に反映

#### 開発部門

### 組織横断的な会議を定期的開催

ボルボ・グループ共通のプロセス「GDP」に基づき、開発の段階ごとにチェックポイントを設定し、性能・機能・耐久信頼性など各品質項目に基づく監査を実施しています。監査は、販売部門および技術品質管理部の代表者によって組織横断的かつ定期的に行っており、製品の品質向上のため、品質課題の共有や責任部署での有効な対策の実施に役立てています。また、サプライヤーに対しては、製品を企画・開発し量産に至るまでの手順や成すべき作業を定めた

「APQP」に基づいてデリバリー体制や品質管理体制を確認し、供給部品の品質確保を図っています。

#### 従業員啓発

日頃からの品質に対する意識を高めるために、啓発活動の一環として、開発部門の従業員を対象として、ISO9001の基本知識やボルボ・グループの品質マネジメント方針と、日常業務との関連についてのトレーニングを行っています。今後はさらに一人ひとりの意識に浸透させることをめざして、従業員の業務や習熟度に応じたトレーニングプログラムの継続的な実施を計画しています。

#### 生産部門

### 各部署の品質責任者の取り組みを内部監査で確認

生産部門では、各部署の責任者が品質マネジメントシステムを確立・維持する責任と権限をもっています。

日々の生産活動においては、UDトラックス独自の管理手法「QRQC」を導入。あらかじめ定められたプロセスに沿って部品のデリバリーや製造過程における生産・品質不具合を毎日確認しながら、目標とする品質を確保し、要求事項を満たすよう努めています。この管理手法は、ボルボ・グループの各工場にも採用されるなど、製造時の品質確保の標準としてグローバルに展開されています。

また現場での取り組みが有効であったかどうかを評価するために、内部監査を計画的に実施しています。各部では、内部監査の評価をもとに、必要に応じて是正措置を講じるなど、すべての項目が確実に監査目的に適合するように改善を行っています。2014年度は、11月に上尾、鴻巣、羽生のパワートレイン工場と車両組み立て工場内部監査を実施しました。

## 従業員啓発

毎年11月を「品質月間」とし、全社的な品質意識の向上を図るとともに、部署ごとに各工程の再確認を行い品質管理技術や技能のレベルアップを図る活動を推進しています。

## 販売・アフターマーケット部門

### アフターマーケット品質の向上に向けた多彩な取り組みを実施

お客様が車両の稼働状況を気にすることなく、日々安心してトラックを使用していただけるよう、整備品質の向上とスタッフのスキルアップを柱に、アフターマーケット品質の確保に努めています。

## 整備品質の向上

ディーラー各拠点での再整備を防止するために、アフターマーケット部門では、支社の整備工場担当が毎月、再整備を発生させた拠点の発生状況を把握し、要因分析と改善策を集約してアフターマーケット本部へ報告しています。その際、重要度の高い再整備については、拠点内で対策会議を開催し、改善策の検討を行っています。検討結果は、管轄支社の整備工場担当を経由してアフターマーケット本部に報告され、本部から全国の拠点へ情報共有されることで再整備の発生を抑制する仕組みとなっています。

## クオリティ・テクニカル・カンファレンス2014

予期せぬ不具合の発生にも迅速かつ的確に対応できる豊富な知識とスキルをもつ整備スタッフを養成し、お客様に質の高いサービスを提供していくために、2014年5月、ディーラーの整備スタッフを対象とした講習会「クオリティ・テクニカル・カンファレンス2014」を東京と大阪で開催しました。講習会には、メカニックとトレーナーなど約250名が参加し、自社トラックの最新の品質改善内容、専用ツールを用いた故障データ分析手法、お問い合わせの多い不具合の修理ポイント、新しい品質情報処理方法などに関する4講座

を2日間にわたって受講しました。なお、今回の講習会は、2013年に東京で開催した「クオリティ・ラン・スルー2013」の規模・内容を拡大したものです。



カンファレンスに参加した従業員たち

## 世界規模のアフターマーケット技能向上イベントに参加

UDトラックスは、2014年6月～11月まで、ブランド最大のトレーニングイベントと位置づける「UDトラックス現場チャレンジ」を初めて実施しました。このイベントは、整備工場のメカニックやパーツ担当者、フロントといったアフターマーケット業務に従事する従業員の能力強化を目的としており、チーム対抗で技能を競うものです。日本から102チームが参加したほか、南・東南アジア、南アフリカのディーラーが参加しました。数カ月にわたる各国内予選と決勝を勝ち抜くためには、高い技能とチームメンバーとの協力が求められます。イベントへの参加を通じて、従業員たちは、より専門的な知識と技術、そして問題解決のために有効なコミュニケーションなどを学びました。

また、ボルボ・トラックとボルボ・バスのアフターマーケット業務に関わる従業員を対象に、1957年に始まったトレーニングイベント「VISTA(ビスタ)」には、日本からは2005年に初めてボルボ・トラック正規ディーラーが参加しています。2012-2013競技会からはボルボ・トラックを取り扱うUDトラックス系ディーラーも加わり、合計41チームが参加しました。



現場チャレンジで技能を競う日本人チーム



# お客様満足の上をめざして

お客様満足の継続的な向上のために、UDトラックは、設計段階からお客様の潜在的なニーズの把握に努めるとともに、さまざまなコミュニケーションによってお客様の声を日々の事業活動に反映しています。



## お客様満足向上に対する方針

### お客様の視点に立った 製品計画・開発計画を立案・実行

お客様の満足度の高い商品を提供するために、UDトラックは、お客様の日々の業務や直面されている課題を知り、理解するところから製品計画を始めています。そして、将来のトレンド——10年後の社会や業界の状況、新しい法規制などを考慮し、ボルボグループがもつ知見や実績も加味しながら、お客様にとって価値ある商品を検討し、開発計画に反映させています。

また、トラックは長期間使用されるため、生涯コストをいかに低減し、リターンを最大化するかに照準を合わせて目標設定し、その解決策を開発計画に織り込んでいます。

新製品の発表時には、お客様にUDトラックがめざした目標や導入メリットがはっきり伝わるよう、お客様の言葉、お客様の視点で紹介するよう努めています。

## 主な取り組み

### お客様とのコミュニケーション活動を推進

#### お客様との直接対話

#### 市場トレンドを継続的にヒアリング

商品計画や開発部門では、お客様のニーズを把握するために、専門的な知識をもった従業員が直接お客様を訪問し、ご意見やご要望を聴く活動を継続しています。

また、日本市場は荷台架装の種類が非常に多いため、定期的に架装メーカーを訪問し、車両全体の市場トレンドを調査し、商品計画に反映しています。

#### 新製品試乗会

#### 試乗会で製品の特徴を紹介

新製品のパフォーマンスを実感していただくことを目的に試乗会を開催しています。お客様自らハンドルを握ることによって、新製品の安全性や操作・運転性などの特徴を実際に確認し、正しく理解していただけるように努めています。2014

年に全国3カ所の主要都市で開催した新型「クオン」の試乗会では、750名を超えるお客様に参加いただきました。また、その他の地域で実施した試乗会では約1,000名のお客様に会場いただきました。



試乗会の様子

#### お客様への情報発信

#### お客様向け情報誌を発行

UDトラックはお客様の会社経営をサポートすることを目的に、毎月お客様向け情報誌「ディーゼル・ニュース」を発行しています。商品情報だけでなく、お客様の課題解決に関連する話題や学術的な情報なども掲載しています。

また、ボルボトラックでは、「ポ・ヴェーグ(スウェーデン語で「道の途中」の意)」を、年2回~3回発行し、製品やアフターサービス情報、世界各地のお客様の声など、さまざまな情報を豊富な写真とともに紹介しています。



ディーゼルニュース

#### お客様相談窓口の取り組み

#### お客様の声を商品や事業活動に反映

お客様からの各種お問い合わせやご意見、ご要望に電話で対応する「お客様相談室」を設置しています。想定されるお問い合わせごとにマニュアルを整備し、迅速かつ円滑な運営に努めています。また、内容に応じて関係部署と情報を共有し、商品の改善や事業活動に反映しています。総受付件数は、2013年は4,836件、2014年は5,255件でした。

#### お客様満足度調査と改善活動

#### 調査結果をアクションプランとして実践

前年にトラックを購入されたお客様を対象に隔年で「お客様満足度調査」を行っています。調査票は「製品」「販売活動」「納車」「アフターマーケット」などのカテゴリーに分類し、具体的なフィードバックが得られるよう工夫しています。詳細な分析結果をもとに、評価の低い項目については具体的なアクションプランを策定し改善に努めています。

# 責任ある調達の実践のために

事業活動において重要な役割を果たすサプライヤーとの適正な関係を構築していくために、ボルボ・グループの調達方針に則り業務を行っています。また、グローバルなCSR課題である紛争鉱物問題にも取り組んでいます。



## 調達方針

### CSRの実行プロセスの一つと位置づけて調達を実施

原材料や設備だけでなく、日常業務に必要なサービスや消耗品に至るまで、サプライヤーはUDトラックスの事業活動に欠かすことのできないパートナーです。UDトラックスは、サプライヤーとの適正な関係づくりのために、ボルボ・グループの調達方針に則り業務を行っています。

ボルボ・グループでは調達活動をCSRを実行するプロセスの一つとして位置づけており、「責任ある調達」を実践することで持続可能な社会の実現への貢献、環境負荷の低減、そしてビジネスの側面から倫理観を高めながらサプライチェーンにおけるリスクを管理し、サプライヤーとの長期的な関係を築いていくことをめざしています。サプライヤー各社へは、各国の法規制や「ボルボ・グループ行動規範」に含まれたルールへの遵守、また国連グローバル・コンパクトなどの国際的な規範の尊重をお願いしています。さらに、環境の保護と環境負荷の低減の観点から、ISO14001もしくはそれと同等の第三者機関による認証の取得をお願いしています。

UDトラックスは、すべてのサプライヤーに同じレベルでの取り組みと、二次、三次サプライヤーにもこの調達方針を展開することをお願いしています。

## 主な取り組み

### 適正なサプライチェーンの構築を推進

#### 調達管理の一元化

### 専任部署が全社の調達活動をマネジメント

UDトラックスでは、サプライヤーの選定や、品質やサービス、コストなどの評価を、全社の調達業務を管理する調達部がボルボ・グループの調達方針に則り行っています。

調達部は、物品やサービスの購入を検討する部署と連携をとり、必要なアイテムと条件・予算などを確認した上で、

適切なサプライヤー候補を提案します。とくに、新規サプライヤーからの調達の検討が必要な場合は、調達部が主体となって詳細な情報収集を行います。調達部と関連部署がすべての案件について連携し、最終的な発注先を決定します。

#### ■ 本社ビル新築プロジェクトでの調達活動

2015年7月完成予定の本社ビル新築プロジェクトでは、不動産管理などを行うリアルエステート部が調達部と連携してサプライヤーを決定しました。選定にあたっては、リアルエステート部が従業員の労働環境に関する日本の法令やボルボ・グループのオフィス設計ガイドラインなどを遵守するための要件を具体化し、調達部は専門性やコストなどさまざまな調達要件を検討してサプライヤーを選定しました。

#### ■ 紛争鉱物および鉱物資源採掘に関する取り組み

### グローバルな重要課題と位置づけて取り組みを強化

一般的にコンピュータ部品の製造などに不可欠であり先進国での需要が高いスズ、タンタル、タングステン、金といった鉱物資源は、主に紛争地域であるコンゴ民主共和国と同国に隣接する国々で採掘されるため、当該地域からの調達が現地の武装勢力の資金調達源となり、結果として地域の紛争に加担することが世界的に危惧されています。ボルボ・グループでは、これら紛争鉱物問題への対応をグローバルなサプライチェーンマネジメントにおける重要課題と位置づけ、国際的な要請への対応を強化しています。

2013年には、国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づき、南アフリカ共和国でのプラチナ採掘現場における人権課題について、「スウェードウオッチ\*」による調査を受けました。現在は、「ボルボ・グループの影響は限られたものではあるが、さらに関係者や取引先との協力体制を構築することによってより良い影響を及ぼすことが可能」という調査結果を踏まえた改善活動を推進しています。

\*スウェーデン企業の途上国での事業を監視する市民団体ネットワーク。



# 安全性を追求して

「安全性」を企業理念の一つに掲げ、先進安全技術の開発に注力するとともに、社内外で安全の向上に取り組んでいます。



## 安全マネジメント方針

### 安全な輸送ソリューションを提供するリーディングカンパニーをめざして

UDトラックは、ボルボグループの一員として、「安全性」を企業理念の一つに掲げています。人々の健康と福祉を守るために、自社製品に起因する事故をゼロにするという究極の目標に向けて、安全性向上の継続的な取り組みに努めています。

活動にあたっては、製品とサービスにおける安全性を重視し、お客様の製品の活用方法に関する知見を深め、安全性に関して起こりうる問題を体系的に評価しながら製品やサービスを開発しています。また、お客様や対象市場のニーズ、社会事情に適した安全機能を備えた製品・サービスの提供に努めています。

## 主な取り組み

### 「技術」と「意識」を軸に安全性を向上

#### 環境・安全技術連絡会

#### 定期的な会議を開催して製品安全を確認

安全性の高い製品の開発にあたっては、ボルボグループの安全ポリシーに基づき、各国の法規制、地域や業界の自主規制を遵守することを基本としています。

この基本を徹底するために、毎月社内商品開発や商品企画に関わる担当者で構成される「環境・安全技術連絡会」を開催し、国内外の法規制の動向や業界のトレンド、新技術など、安全に関わるさまざまな情報を共有しています。また、自社製品の開発に影響を及ぼす可能性のある情報については、先行開発、商品戦略などの部署の責任者が適宜商品化に向けた議論を行い、適切に判断するよう努めています。

#### 安全技術の開発・活用

#### 法規に先駆けて先進安全技術を導入

社会やお客様の安全性に対するニーズの高まりに応える

ために、先進的な安全技術の開発に注力するとともに、法規の施行に先行して市場に投入し、普及を図っています。

#### AEBS(先進緊急ブレーキシステム)

大型トラックで多い追突事故を防止する目的で、2014年5月発売の新型「クオン」から、AEBS(p9)を法規の施行に先行して標準設定しました。

#### LDWS(車線逸脱警報装置)

集中力低下などが原因で走行車線を外れて起こる重大事故を防止する機能として、2014年5月発売の新型「クオン」からLDWS(p9)をオプションとして設定しました。LDWSは、2017年11月から順次義務化される予定です。

#### 安全運転講習会

#### お客様のニーズに沿った実践的なプログラムを提供

販売部門では、お客様一社ごとに「安全運転講習会」を開催しています。講習会では、「運輸安全マネジメント」「飲酒運転の危険性」「トラックの死角」「事故事例と防止策」「危険回避」「ヒューマンエラー」などからお客様のニーズに沿ったテーマを選定。学んだ知識をすぐ実践できるよう、座学と実技を組み合わせたプログラムを提供しています。

講習会で用いるツールについても、効果を最大化するために、実際の事故車両に取り付けられていたドライブレコーダーで撮影された映像を使って、お客様に事故を疑似体験していただくなど、自分自身のこととして捉えられるよう工夫しています。

2014年は153回(2013年142回)実施し、3,164名(同3,037名)が参加しました。受講したお客様からは「知らなかった事柄もあり、



安全運転講習会の様子

従業員に注意喚起する上で効果的な講習会だった」などの声が寄せられました。

## 交通安全啓発活動

### 日本自動車工業会のキャンペーンに参加

2013年中の日本国内における交通事故による死者数は4,373名で、13年連続で減少しましたが、依然として高いレベルにあります。こうしたなか、UDトラックを含む国内の自動車メーカーが加盟する一般社団法人日本自動車工業会（自工会）では、交通安全啓発活動を継続的に実施しています。また近年は、交通事故死者のなかで高い割合を占める高齢者を対象とした交通安全啓発活動に注力しています。

2014年秋の全国交通安全運動と連動して実施された自工会の「秋季交通安全キャンペーン」では、重点地域である静岡県と岐阜県で行われた街頭活動にも参加しました。

高齢者の交通事故死者のなかでも、とくに夕暮れ時から夜間の歩行者が多いため、街頭活動では、歩行者が目立つ反射材付エコバッグや自発光式反射材などを配布し、交通安全を呼びかけました。またディーラーの店頭には「夕方早めのヘッドライト点灯」ののぼりを掲示し、ドライバーに注意喚起しました。



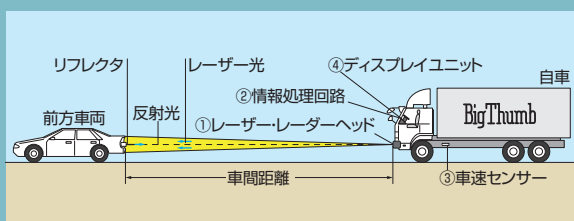
交通安全キャンペーンの様子

## 安全技術開発の歴史

UDトラックは、商用車メーカーの使命として、長年にわたり安全性の向上に取り組んできました。

### トラフィックアイ

1989年、乗用車も含め、自動車としては世界初となる車間距離警報装置「トラフィックアイ」を大型トラック「ビッグサム」に採用しました。当時は、一時、1万人を割り込んだ交通事故死亡者数が増加に転じ、「第二次交通戦争」といわれた時代でした。そのため、商用車に対しても効率性だけでなくより高い安全性が求められていました。「トラフィックアイ」は、先行車両との車間距離と相対速度をレーザーレーダーで測定し、追突の危険性を検知するとドライバーに警報で知らせる機能をもつ先進的な追突防止装置です。今日、多くの車に搭載されているプリクラッシュセーフティシステムの基本技術を、UDトラックでは25年以上前に実用化していました。



### SRSニーエアバッグ

トラックが衝突した場合、ドライバーは身体に大きな衝撃を受けます。車体構造の性能の著しい向上などによって事故による死亡者数は減少していますが、未だ多くの重傷者が発生しています。トラックドライバーは職業ドライバーであり一日も早い業務復帰が求められることから、UDトラックは、生命に重大な影響を及ぼす頭部や胸部の保護だけでなく、下肢部も含めた総合的な保護対策によってダメージの軽減を図る技術を開発。2004年、「SRSニーエアバッグ」をトラックとして世界で初めて採用しました。SRSニーエアバッグは、運転席のインストルメントパネルと脚部の間に展開したニーエアバッグが衝撃発生後の早い段階から膝や腰部を受け止め、シートベルトなどの動きと合わせて衝撃を緩和して、下肢へのダメージの軽減を図ります。



## CSR Column



# 従業員の力を活かすために

「持続可能な輸送ソリューションの世界的リーダー」を担う優秀な人材の雇用と育成、最適配置を実現するために、個人がもつ多様な強みを活かす人事制度の設計・運用、多様な働き方を実現する活動を推進しています。



## 人材マネジメント方針

### 「グローバルでハイパフォーマンスな人材」を育成

UDトラックスは、「持続可能な輸送ソリューションで世界的なリーダーになる」というボルボ・グループのビジョンを実現していくために、「グローバルでハイパフォーマンス」という人材像を掲げています。そして、優秀な人材を積極的に採用するとともに、体系的な人材育成システム、公正・公平な評価システムの構築に注力しています。

これら制度設計や運用にあたっては、「ボルボ・ウェイ」に明記された「個人の尊重」「自発性」「多様性・クロスファンクショナル」「チームワーク」「情熱・責任感」「オープンな対話」といった価値観を重視するとともに、従業員サーベイの結果などを踏まえて、各種の取り組みがUDトラックスらしい企業文化の構築や、一人ひとりの能力を最大限に発揮できる働きやすい職場づくりにつながるよう努めています。

## 主な取り組み

### 多様性を核に据えた制度の導入や活動を推進

#### 雇用・採用

### 一人ひとりの能力と 中長期戦略を踏まえた人材を採用

個々の従業員の関心や志向、能力と、企業としての中長期戦略を踏まえた人材採用を実施しています。

2014年度は、130名の新卒者、38名のキャリア保有者を採用しました。

従業員数(2014年12月末日現在)

性別	女性	男性	総計
従業員数	509名	6,360名	6,869名
男女比率	7.4%	92.6%	100.0%

国籍数：25カ国

アイルランド、アメリカ、イギリス、イタリア、インド、オーストラリア、オーストリア、カナダ、スイス、スウェーデン、スリランカ、タイ、ドイツ、トルコ、ネパール、ブラジル、フランス、ベトナム、ベルギー、マレーシア、メキシコ、韓国、中国、南アフリカ、日本

## 人材育成

### 長期的な視点でキャリア形成をサポート

長期的な視点で従業員のキャリア形成をサポートしていくために、毎年のパフォーマンス評価の際に個人の育成計画について上司と部下が話し合いをもっています。また、後継者育成計画の策定・レビューを通じて、シニアからミドルレベルまでの計画的な育成計画を実行しています。

研修においては、グローバルに標準化されたプログラムで構成される「ボルボ・グループ・ユニバーシティ」と、日本のビジネス環境に則った「ローカルトレーニング」を組み合わせることを基本に、以下のプログラムを実施しています。



研修プログラムに参加した従業員たち

#### ボルボ・グループ・リーダー育成研修

階層別(管理職候補から各ビジネスをリードするレベルまでの4階層)に期待される能力を獲得するための研修です。

#### 各ファンクション主体研修

事業機能ごとに求められる能力開発を実施しています。

## 公平な評価・処遇

### 年間目標を設定して半年ごとに進捗を確認

全従業員が毎年、年間目標である「パーソナル・ビジネス・プラン」を設定し、半年ごとに上司とともに進捗を確認しています。また、個人の目標達成度をベースに、チームや全社の目標達成度などを加味した報酬制度を整備しています。

## 従業員サーベイ

### 調査結果をもとにアクションプランを策定

従業員とのコミュニケーションや積極的な経営参画を推進するために、毎年定期的に従業員サーベイ「VGAS」を実施しています。

サーベイでは、会社の価値観や目標、戦略に対する従業

員の参画意識を、従業員であることの誇りや組織への満足度などで測り、スコアの低い項目については、上司が部下とともにアクションプランを策定し、改善に向けて活動を行います。

### ダイバーシティ&インクルージョンマネジメント

#### ポリシーを定めてさまざまな活動を推進

人材の多様性を高め、個人が最大限に能力を発揮できる環境を築くことが、高い業績を持続的に実現する鍵であると「ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)ポリシー」で定めています。従業員サーベイでは、多様性を主に性別・国籍・年齢で、インクルージョンの浸透を従業員がチームの一員として必要とされていると感じているかどうかなどの質問で評価しています。

2014年度は、全マネージャーを対象として、「ダイバーシティ・インクルーシブネス・リーダーシップトレーニング」を実施しました。また、9月にはD&I活動の啓発を目的に、従業員からダイバーシティを表現した写真を募る写真コンテストや、スウェーデンの習慣である「フィーカ(ティーブレイク)」を実施する「D&Iウィーク」を開催しました。さらに、女性の活躍促進にも力を入れています。社内のマネージャー職はすべて社内公募制度をもとに決定する仕組みを採用しており、この制度導入後の2012年から2014年にかけて女性管理職の人数は35名から44名に増えました。



D&Iウィークでの一コマ

#### ダイバーシティとは

性別、国籍、人種、年齢、性的指向、宗教、政治に対する信条、社会経済的地位、身体能力など、異なる背景や視点をもつ人々のこと。

#### インクルージョンとは

自身の存在を尊重され、評価されていると感じること。また、能力を最大限に発揮できるよう、周囲から一定の支援と関与を感じとること。

### DICJ

#### (Diversity & Inclusiveness Community Japan)

異なる部門・性別・世代で構成された「DICJ」は、定期的に集まり、社内のダイバーシティ&インクルーシブネスの浸透のためにどのような活動が必要かを話し合っています。毎年実施される「D&Iウィーク」においては活動メンバーの中心となり、啓発トレーニングを実施したり、フォトコンテストなどのイベントを企画・実施しています。

### WIN(Women's Inclusive Network)

「WIN」は、女性従業員で構成された会社認定のボランティア組織で、女性の活躍を推奨する活動を行っています。ランチミーティングやゲストスピーカーによるセミナーなど、毎年20以上のイベントを企画・実施しており、2014年度の活動は世界中のグループ会社のなかでもとくに優れた活動としてボルボ本社からの表彰を受けました。

### ワークライフバランス

#### 活用しやすい仕組みづくりに注力

人事部門が中心となって有給休暇取得の促進や残業の削減など、ワークライフバランスの推進支援策を実施しています。また、「ワーク・フロム・ホーム(随時または期限付の在宅勤務)」など従業員がプライベートと仕事を効率的に両立できるように関連する制度やポリシーを整えています。

### 個別の働き方を支援する主な制度・ポリシー

- 育児休職制度
- 介護休職制度
- ワーク・フロム・ホーム制度
- フレックスタイム制度
- 職場での尊厳に関するポリシー(ハラスメント防止策)



# 地域社会の一員として

事業の円滑な推進のためには、地域社会との信頼関係を構築することが不可欠です。そのために、UDトラックスは、経営資源を活用して、地域の課題解決や環境保全に寄与する社会貢献活動などに取り組んでいます。



## 社会貢献活動方針

### 持続可能な社会の実現をめざして

企業が長期にわたり継続的な成長を遂げるためには、事業活動に関わるお客様やサプライヤー、地域社会など多様なステークホルダー、地球環境との持続可能な関係を保つことが前提となります。その一環として、UDトラックスは、社会や環境に寄与する社会貢献活動に、企業市民としてできることから取り組みを始めています。

## 主な取り組み

### 経営資源を活かした活動を推進

#### 高齢者向け「インターネット体験会」

#### ITツールによる情報へのアクセスを支援

近年、日常生活に必要な情報の多くがインターネットなどで発信されるようになりましたが、その一方で、日々進化するITツールを使いこなすことが難しいという高齢者の方も増えています。そこでIT部門では、2012年から本社のある上尾市の市役所と協力し、主に地元の高齢者の方を対象とした「インターネット体験会」を開催しています。体験会では、従業員が講師となって「インターネットを使う楽しさを知る」「文字入力と検索の基本を知る」「インターネットショッピングと安全にインターネットを利用するコツを知る」という3つのコースを基本とした講座を開講しています。パソコンに初めて触れる方もいるため、無理なく、楽しく、かつ実用的なプログラムとなるよう努めています。

参加者からは「もっと早くインターネットを使い始めれば良かった」「電車の予約にチャレンジしたい」「これを機にパソコンを購入しインターネットを活用し始めた」などのコメントをいただい



インターネット体験会の様子

ています。なお、参加者は2013年が約120名、2014年が約100名でした。

#### 施設見学会「UDエクスペリエンス」

#### 近隣住民の方々に会社の取り組みを紹介

2014年7月と12月に、本社のある上尾市近隣に住む方々を対象とした施設見学会「UDエクスペリエンス」を開催しました。これは、普段は立ち入ることができない会社敷地内を一般の方々に見ていただき、地元企業としての親近感や安心感をもっていただくことを目的にしたものです。

当日は、幅広い世代の方々に参加いただき、展示ホールでUDトラックスの歴史や製品を紹介したほか、工場でのトラックの組み立てラインやエンジン組み立ての様子を見学していただきました。その後、テストコースで大型トラックに同乗する試乗体験も実施しました。参加者からは「子どもの社会勉強にとっても有意義な機会となった」「試乗体験が楽しかった」「品質管理のためのさまざまな取り組み、良い製品をつくろうとする意気込みが伝わってきた」などのコメントをいただきました。今後は、対象地域を広げて継続する予定です。



近隣の方を招待して施設見学会を実施

#### 従業員による清掃活動

#### 本社の周辺をクリーンアップ

2014年10月2日、本社に勤務する従業員155名が参加し、本社の周辺地域を清掃しました。ゴミ袋を持った従業員は、近隣住宅地のゴミ拾いや除草などを行いました。とくに敷地と隣接する国道の歩道には雑草が生い茂り、なかには大人の背丈ほどのものもあり、歩行者の安全対策が課題となっていました。小型重機などをフル活用し、予定していた1時間後にはきれいな状態となりました。

## ディーラーへのAED設置

### 全国に設置したAEDを一般にも公開

突然の心停止の時、心臓を正常なリズムに戻す電気ショックで救命率を上げるAEDを、2014年に全国137カ所のディーラーに設置し一般にも公開しています。近隣で必要な事態が発生した場合にもすぐに利用していただけるよう「AED設置事業所」とわかるように建物の入り口にシールを貼付しています。また、従業員の心肺蘇生法の救命講習の受講やAED収納ボックスへの受講者の氏名の表示など、円滑な運用のためのガイドラインを設けています。

これらディーラーの所在地は、容易に検索できるよう、一般財団法人日本救急医療財団のウェブサイト\*に掲載しています。



事業所に設置されたAED

\*一般財団法人日本救急医療財団ウェブサイトAED設置場所検索ページ  
<http://www.qqzaidan.jp/AED/aed.htm>

## 自動車整備専門学校での技術トレーニング

### 将来の自動車業界を担う人材を育成

東北支社では、自動車業界の優秀な人材育成に貢献するため、2011年度から自動車整備専門学校の教員や学生を対象とした大型トラックの新技術に関するトレーニングを実施しています。2014年度は、宮城県の花壇自動車大学の教員および学生と山形県立山形職業能力開発専門校の学生を対象としたトレーニングプログラムを実施しました。学生向けトレーニングでは、最新の大型トラックの概要やエンジンとトランスミッションの最新技術のほか、内部の様子がわかるカットモデルを使用して、オートマチックトランスミッションの構造や故障診断装置を使用する修理方法などを紹介しました。また東北支社で開催した教員向けトレーニングでは、2014年度から2級整備士の教本に新しい燃料供給システムである「コモンレール\*」が追加になったことを踏まえて、コモンレールにフォーカスしたトレーニングを実施しました。

学生たちからは「最新の技術に触れる良い勉強になった」

というコメントを、教員の方からも「実際の部品を見ながらの研修で理解が深まった」「普段の授業ではなかなか説明が難しいので非常にためになった」との感想をいただきました。なお、研修で使用した部品は学校に寄付し、学生の継続的な学習に役立てていただいています。今後も引き続き技術トレーニングの実施計画を立案していきます。



技術トレーニングの様子

\*サプライポンプにより高圧化した燃料を蓄えて各インジェクターに供給するシステムのこと。

## 上智大学との産学連携プログラム

### グローバル人材の育成に貢献

ボルボ・グループは、グローバル人材を育成していくために、学生に対してさまざまな学びの機会を提供しています。今回、日本での初の取り組みとして2014年に上智大学とパートナーシップを締結しました。これで、ボルボ・グループは世界6カ国・10校と産学教育連携を結んだこととなります。プログラム期間は3年で、この間、上智大学とボルボ・グループは授業科目を共同開発・開講し、グローバル企業の経営戦略の策定方法やこれに基づく組織の成り立ち、ビジネス現場での実践例などを講義します。また、ボルボ・グループの国内外の拠点で1カ月～3カ月間のインターンシッププログラムも提供するほか、全学部を対象とした奨学金制度も創設します。これらの活動を通じて、学生が理論や思考力などグローバルビジネスの現場で求められる素養を身につけることができるように支援していきます。



上智大学とパートナーシップを締結

# 環境経営の推進に向けて

UDトラックスは、ボルボ・グループのビジョンに沿った環境プログラムや環境管理・保全に関する中長期計画に基づき、製品の環境性能の向上と自社の事業活動に伴う環境負荷の低減を積極的に推進し、持続可能な社会の実現をめざしています。



## 環境マネジメント方針

### 4つのプログラムで 持続可能な社会の実現に貢献

ボルボ・グループは、「環境への配慮」を企業理念の一つに掲げ、この分野におけるリーディングカンパニーをめざしています。

このビジョンに沿って、UDトラックスは、「全体的な視点」「継続的な改善」「技術の発展」「資源の利用効率向上」の4つからなる環境プログラムを推進し、持続可能な社会の実現をめざしています。

#### 環境プログラム

##### 全体的な視点

製品ライフサイクル全体を考慮し、製品・業務・サービスが環境に及ぼす影響を低減する取り組み

##### 継続的な改善

従業員が主体となって、それぞれの業務のなかで必然的・継続的に推進する取り組み

##### 技術の発展

お客様や社会からの要請・期待を上回る、自発的・先駆的な研究開発

##### 資源の利用効率向上

天然資源の消費削減や廃棄物の発生抑制につながる取り組み

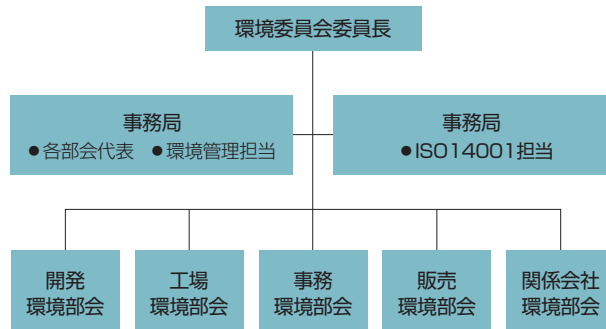
## 環境マネジメント体制

### 「環境委員会」で全社の環境計画を策定

社長の直下に各部署を基本とする部会で構成される「環境委員会」を設置しています。同委員会は、全社環境管理・保全に関する中長期計画の策定や重要事項の審議・承認などの機能を担っており、社内外への広報・啓発活動も行っています。

また、各部会においてはそれぞれの部署で管理・実行組織を設置し、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001などにより環境活動を推進しています。

## 環境管理体制



## ISO14001 認証の取得状況

### 各部門・拠点を一つのサイトとして 環境マネジメントシステムを運用

UDトラックスは、ISO14001の認証を取得しています。1998年度に本社・上尾工場が取得後、2009年度までに開発部門、鴻巣・羽生工場、群馬部品センター、国内関連会社で取得を完了しました。



ISO14001 認証

現在は、当社の開発部門、生産部門、さらには関連会社を一つのサイトとして環境マネジメントシステムを運用し、環境活動計画における目的・目標の達成をめざしています。

### 環境マネジメントシステムに対する内部監査／外部審査 運用状況や有効性を定期的に確認

環境マネジメントシステムが適切に機能していることをチェックするために、社内規定に基づく内部監査を毎年定期的に実施しています。監査では、登録された内部監査資格をもつ委員で構成された監査チームが環境マネジメントシステムの運用状況、社内基準、環境関連法規制の遵守状況などを確認・評価しています。また、外部機関による環境マネジメントシステムの審査も毎年受審しています。

2014年度は、内部監査、外部機関の審査ともに重大な指摘はありませんでした。



### 事業活動に伴う環境影響

## 製品ライフサイクルの全段階で 資源の有効利用と環境負荷低減を推進

UDトラックスは、開発・設計から廃棄・リサイクルまで製品ライフサイクルのすべての段階で環境負荷分析を行い、環境に配慮した製品を提供するとともに、資源の有効利用と環境負荷の低減に取り組んでいます。

### 製品環境性能の向上

## 環境性能の向上につながる技術の開発に注力

UDトラックスは、燃費消費を抑制する技術や排出ガスをクリーン化する技術の開発、環境負荷物質管理の徹底などを通じて、総合的な環境保護に努めています。

### 省エネルギー・地球温暖化防止

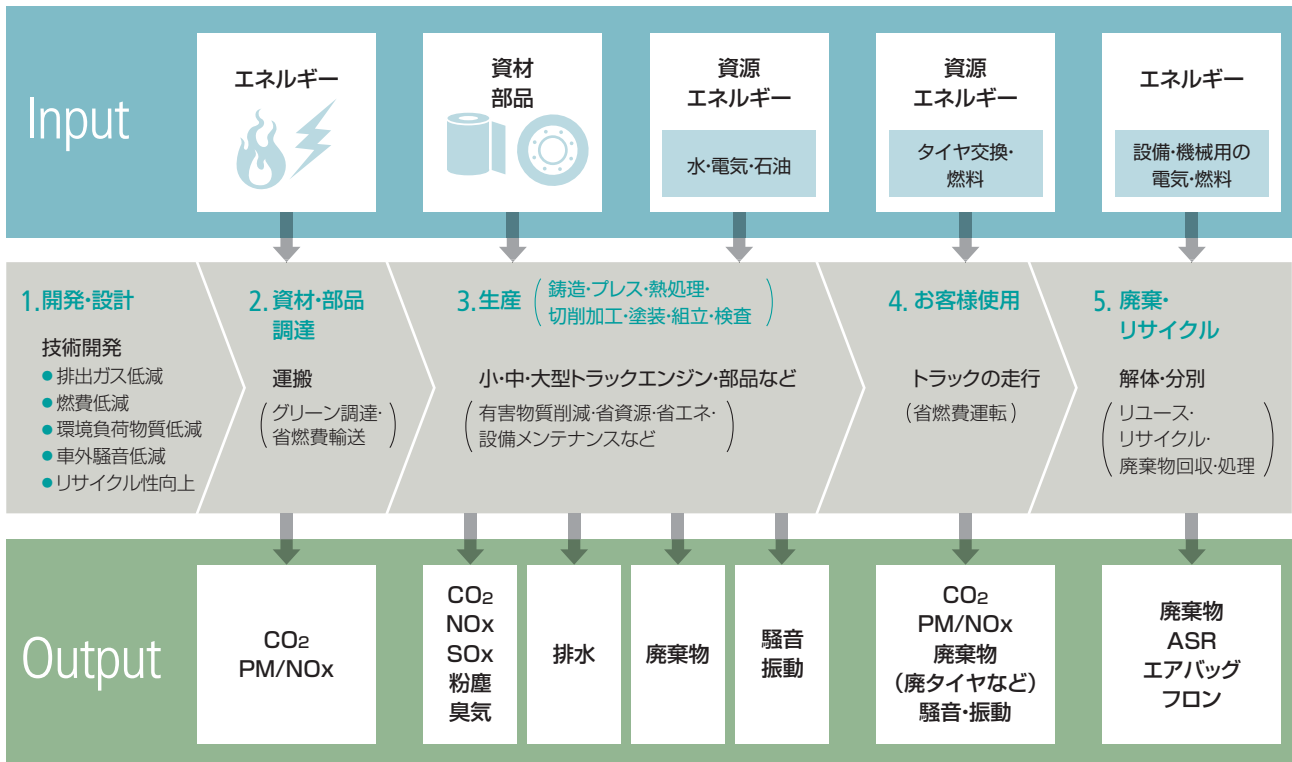
## 燃料消費を抑制する技術の開発

トラックの燃料消費は、事業者にとって経営上の大きな負担となるだけでなく、CO<sub>2</sub>排出の主な要因ともなります。

そこで、UDトラックスでは燃料消費の抑制を環境活動における最大の課題と位置づけ、長年にわたって着実に改善を図ってきました。国内では各メーカーが2015(平成27)年度に達成すべき「平成27年度重量車燃費基準」が施行され、車両重量などのカテゴリごとに目標燃費値が設定されています。2013年度販売実績において、目標燃費を達成した台数は94.3%を超え、平均燃費値においては企業目標を達成しました。

また、こうした車両の燃費改善とともに、トラックドライバーに省燃費運転につながる知識と技術をレクチャーする「エコドライブ講習会」を全国各地で継続的に実施しています。

### マテリアルフロー



トラックのライフサイクルでの環境負荷は、ほとんどが使用中に発生するCO<sub>2</sub>と排ガス（PM・NO<sub>x</sub>）です。

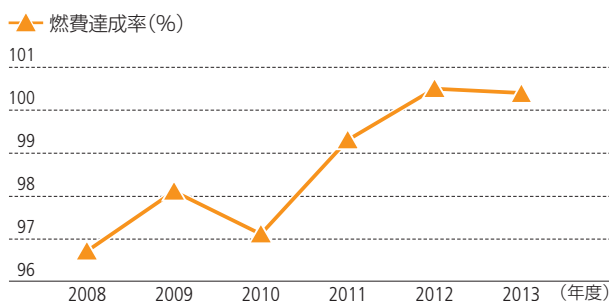
## 燃費改善技術

エンジンやトランスミッションなど駆動系の性能向上、走行状態のきめ細かな制御など、燃費を改善するさまざまな先進技術を積極的に搭載するとともに、大型トラック「クオン」のカーゴトラクター系には省エネ運転を支援する走行時の音声ガイドシステム「燃費王」を標準装備しています。

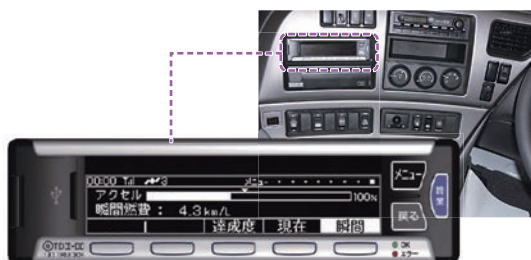
### 大型トラックに採用している主な技術

エンジン	トルク特性の改良／フリクション低減／アイドルストップ装置のオプション設定
駆動系	直結型ESCOT（トップ段ギヤ比をオーバードライブ型から直結型に変更）／ファイナルギヤ比変更／新型エコノミーE-Dモード（アクセルレトリミットおよびソフトクルーズコントロール機能の追加）／ESCOTロール（惰力走行時の速度低下制御）／電子制御エアドライヤ（エアコンプレッサ作動の最適化）

### UDトラック燃費改善状況



※ 2015年基準値を100%とした場合の  
中型・大型トラック総販売台数による加重調和平均



燃費王を搭載した運転席

## エコドライブ講習会

2007年からトラックドライバーを対象に「エコドライブ講習会」を実施しています。毎回10名～15名のドライバーが参加するこの取り組みでは、実際のトラックを使った運転操作や減速運転などの実技講習を通じて、省燃費運転につながる知識と技術の習得をめざしています。受講後は燃費が平均で18%向上したとのデータが得られており、お客様の燃費向上とCO<sub>2</sub>排出量の削減に貢献しています。2014年は全国182カ所で開催し、3,103名のドライバーの皆様が参加しました。



エコドライブ講習会専用のバスで講義を受ける参加者

## 排出ガスのクリーン化

### 全車両で低排出ガス車認定を取得

2004年に世界で初めてトラック用尿素SCRシステム※を実用化し、排出ガス低減システム「FLEND（フレンズ）」を開発しました。2010年からは、これをさらに進化させるとともに、PM（粒子状物質）低減装置「UDPC」を全大中型トラックに搭載しています。これによって、現在ではすべての大中型トラックがNO<sub>x</sub>とPM両方の排出量を規制値より10%以上低減した「低排出ガス認定車」となっています。

※排出ガスに含まれるNO<sub>x</sub>（窒素酸化物）を浄化するシステム。

## 化学物質の管理

### 製品に含まれる化学物質の管理を徹底

化学物質の製造・輸入・管理、環境配慮設計、リサイクルなどに関する法規制や産業界の自主基準の遵守を前提に、自動車業界の統一化学物質リスト（GADSL）に基づき、製品に含まれる化学物質の管理に努めています。

## ■ 化学物質管理の取り組み

### 開発・設計段階

- 各工程でサプライヤーを含めた化学物質の使用状況を確認
- 必要に応じてIMDS<sup>※1</sup>へ情報を登録

### 生産段階

- PRTR制度<sup>※2</sup>に基づき毎年届出・報告を実施
- 社内基準として運用し有害物質代替活動を推進

※1 世界各国の自動車メーカーが環境保全を目的に共同で運営している材料データベース。

※2 特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律。

## 事業活動に伴う環境負荷の低減

### 省エネ・地球温暖化防止や 廃棄物削減に注力

UDトラックスは、省エネアイテムの発掘や優良活動の水平展開などによるCO<sub>2</sub>排出量の削減、ディーラーと一体で取り組む廃棄物削減など、事業活動に伴う環境負荷の低減を積極的に進めています。

## 省エネルギー・地球温暖化防止

### 全社でCO<sub>2</sub>排出量の削減活動を推進

ボルボグループは、2011年にWWFの「クライメート・セイバーズ・プログラム<sup>※</sup>」に自動車メーカーとして初めて参加し、グループの生産工場から排出するCO<sub>2</sub>量を2014年までに50万トン(2008年比12%)削減する目標を掲げています。



UDトラックスでは、「2013年度のCO<sub>2</sub>排出量については1990年度比39%の削減」を目標に取り組み、結果1990年度比68.9%削減と目標を大きく上回りました。今後は、生産量の増加に伴う排出量を含めて削減することが課題となります。

CO<sub>2</sub>排出量の削減に向けて、UDトラックスでは、各部門の代表者が参加する「省エネルギー推進会議」を組織し、省エネアイテムの発掘や優良活動の水平展開を推進。重油

炊きボイラーの廃止や、よりCO<sub>2</sub>排出の少ない電力を供給する特定規模電気事業者(PPS)への切り替えなどを行っています。また、夏季(5月1日～10月31日)のクールビズ、冬季(12月1日～3月31日)のウォームビズを全社で実施しています。

※WWFと企業のパートナーシップで温室効果ガス削減を進めるプログラム。

## 廃棄物削減

### 製品廃棄時の環境負荷を低減

製品ライフサイクルで最も多く廃棄物が発生するのは、ディーラーでの製品廃棄時です。そのためUDトラックスでは廃棄物管理体制を構築し、2014年には廃棄物分別管理に関する社内処理基準を各ディーラー拠点に導入しています。

これに従って、各ディーラー拠点では専用の設備を設置して廃棄物を26カテゴリーに分別する取り組みを行っています。

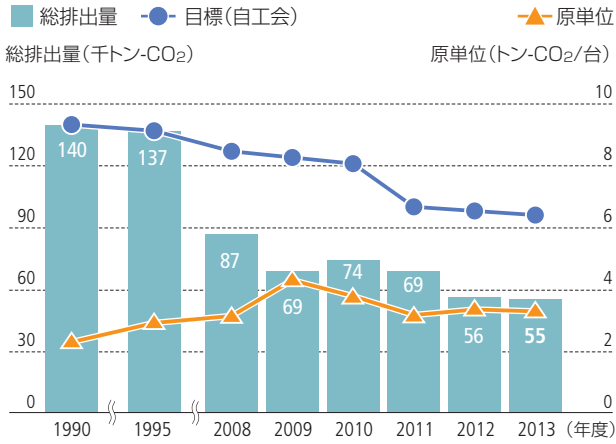
また、UDトラックスでは、製品廃棄・リサイクル段階以外の廃棄物削減も推進しています。開発段階においては、バンパーの3分割化など、部品の解体のしやすさを考慮した設計を行っています。また生産段階では、最終処分量の削減を目標に、廃棄物の発生抑制と再資源化に取り組んでいます。2013年度においては、焼却残さの再資源化や廃棄物の分別活動などを推進し、廃棄物最終処分量を1990年度比で99.9%削減しました。また、再資源化率も全社で99%以上(ゼロエミッション)となりました。

さらに、流通段階ではサービスパーツの発送に使う梱包容器の再利用のためにリターナブル化を進めています。

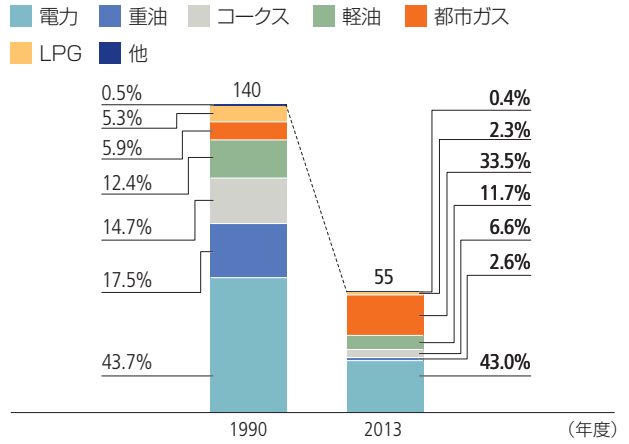


エネルギー／CO<sub>2</sub>関連データ

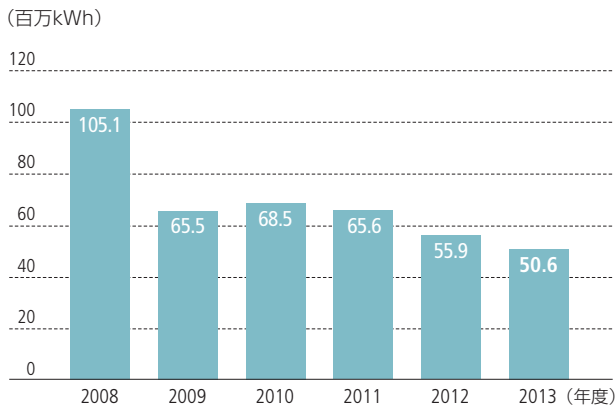
CO<sub>2</sub>総排出量・原単位



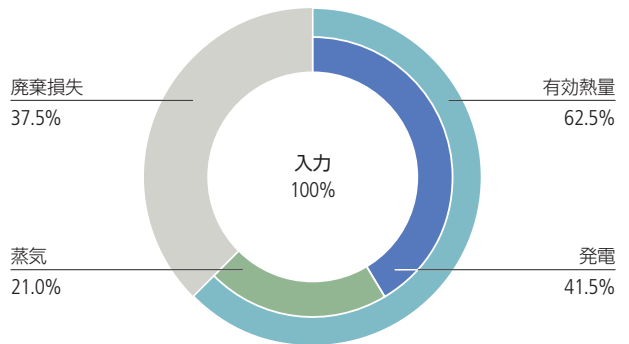
エネルギー別CO<sub>2</sub>排出量



電力使用量(上尾・鴻巣・羽生工場・群馬部品センター合計)

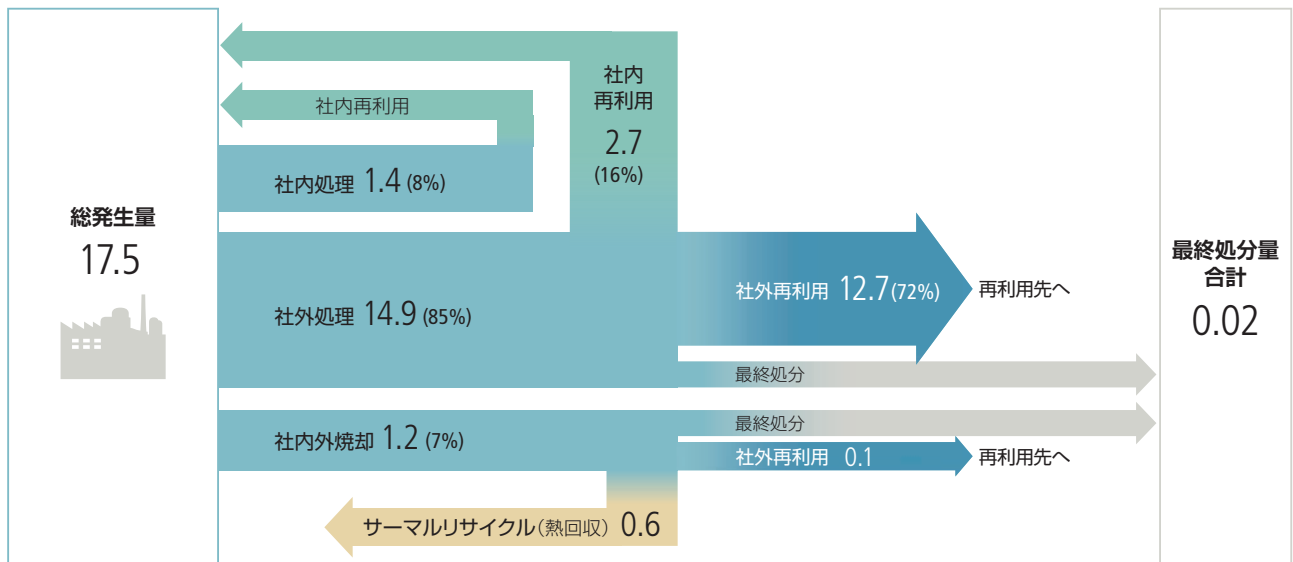


大型天然ガスコジェネレーションの熱収支(2013年度)

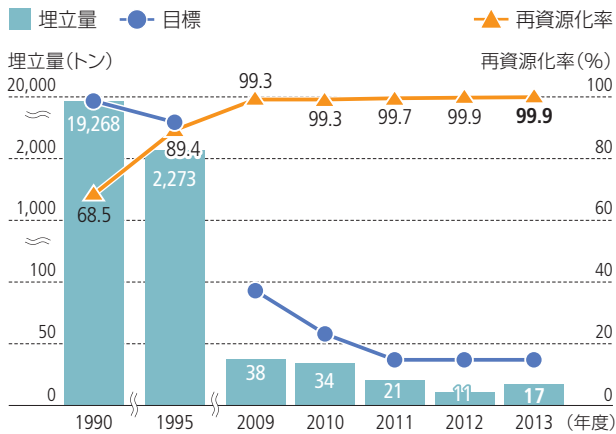


資源関連データ

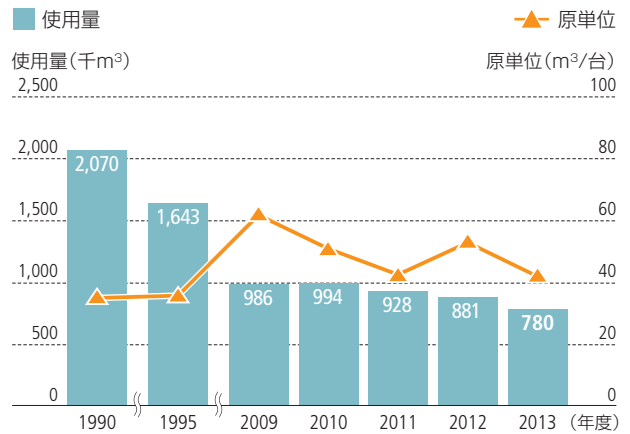
廃棄物処理状況(2013年度)(単位:千トン)



廃棄物最終処分量(埋立量)／再資源化率



使用水量・原単位



※自工会廃棄物分科会の取り組みに準拠し、2004年度より目標値を見直しています。

PRTRデータ

上尾工場(2013年度)

単位:kg/年(ダイオキシン類はmg-TEQ/年)

区分	政令番号	化学物質名	取扱量	排出量			移動量 廃棄物	除去 処理量	リサイクル	消費量 (製品)
				大気	水域	土壌				
特定第一種指定 化学物質	243	ダイオキシン類	130	12	0	0	118	0	0	0
第一種指定 化学物質	1	亜鉛の水溶性化合物	2,381	0	24	0	0	691	0	1,666
	53	エチルベンゼン	36,752	16,306	0	0	0	3,345	16,986	115
	80	キシレン	67,787	23,880	0	0	0	3,653	39,636	619
	296	1,2,4-トリメチルベンゼン	3,976	2,156	0	0	0	1,039		781
	297	1,3,5-トリメチルベンゼン	8,600	1,108	0	0	0	111	7,235	146
	300	トルエン	15,088	11,566	0	0	0	2,298	203	1,021
	438	メチルナフタレン	5,805	48	0	0	0	0	0	5,758

鴻巣工場(2013年度)

単位:kg/年

区分	政令番号	化学物質名	取扱量	排出量			移動量 廃棄物	除去 処理量	リサイクル	消費量 (製品)
				大気	水域	土壌				
第一種指定 化学物質	31	アンチモン及びその化合物	1,163	0	0	0	23	0	0	1,140
	37	ビスフェノールA	3,478	0	0	0	0	0	0	3,478
	53	エチルベンゼン	2,155	2,155	0	0	0	0	0	0
	80	キシレン	3,221	3,175	0	0	0	0	0	46
	87	クロム及び3価クロム化合物	9,666	0	0	0	193	0	0	9,473
	258	ヘキサメチレンテトラミン	15,446	0	0	0	0	0	0	15,446
	277	トリエチルアミン	3,616	0	0	0	0	0	0	3,616
	300	トルエン	6,160	6,158	0	0	0	0	0	2
	308	ニッケル	1,049	0	0	0	21	0	0	1,028
	349	フェノール	1,196	0	0	0	0	0	0	1,196
	412	マンガン及びその化合物	55,674	0	0	0	11,135	0	0	44,539
	438	メチルナフタレン	1,451	7	0	0	0	0	0	1,444
	448	メチレンビス(4,1-フェニレン) =ジイソシアネート	2,882	0	0	0	0	0	0	2,882
	453	モリブデン及びその化合物	1,440	0	0	0	29	0	0	1,411

※特定第一種指定化学物質は取扱量0.5トン以上、その他の物質は取扱量1トン以上の物質を記載しています。

※羽生工場は該当物質の取り扱いはありません。

環境施設の2013年度環境測定データ

(環境データ測定期間：2013年4月～2014年3月)

上尾工場

水質	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
BOD:生物化学的酸素要求量 COD:化学的酸素要求量 SS:懸濁物質 ND:定量下限以下 規制値の( )内は日間平均	排水量	m <sup>3</sup> /日	—	7,362	0	1,613
	pH	—	5.8～8.6	7.9	6.7	7.3
	BOD	mg/	25 (20)	4.6	1	2.6
	COD	mg/	160 (120)	10	2.5	6
	SS	mg/	60 (50)	ND	ND	ND
	N-Hex(鉱油)	mg/	5	ND	ND	ND
	リン	mg/	8	0.28	ND	0.09
	窒素	mg/	60	5.1	1.7	3.3
	亜鉛	mg/	2	0.1	ND	0.05
フッ素および化合物	mg/	8	0.4	ND	0.2	

大気	施設名	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
NOx:窒素酸化物 SOx:硫黄酸化物	ボイラー重油 (20トン)	NOx	ppm	210	廃止		
		SOx	m <sup>3</sup> N/h	12.86			
		ばいじん	g/m <sup>3</sup> N	0.25			
	温水ボイラー	NOx	ppm	150	59	50	54.5
	コージェネ(ガス機関)	NOx	ppm	200	140	87	113.5
	乾燥炉1	NOx	ppm	230	31	8	15
		ばいじん	g/m <sup>3</sup> N	0.2	0.002	0.001	0.001
	乾燥炉2	NOx	ppm	250	13	11	12
		ばいじん	g/m <sup>3</sup> N	0.35	0.005	0.001	0.003
	焼却炉	NOx	ppm	180	130	120	125
		ばいじん	g/m <sup>3</sup> N	0.1	0.002	0.001	0.002
		塩化水素	g/m <sup>3</sup> N	0.2	0.063	0.011	0.037
		ダイオキシン	ng-TEQ/m <sup>3</sup> N	10	—	—	0.49

鴻巣工場

水質	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
BOD:生物化学的酸素要求量 COD:化学的酸素要求量 SS:懸濁物質 ND:定量下限以下 規制値の( )内は日間平均	排水量	m <sup>3</sup> /日	—	廃止		
	pH	—	5.8～8.6			
	BOD	mg/	25 (20)			
	COD	mg/	160 (120)			
	SS	mg/	60 (50)			
	N-Hex(鉱油)	mg/	5			
	リン	mg/	8			
	窒素	mg/	60			
	亜鉛	mg/	2			
フッ素および化合物	mg/	8				

大気	施設名	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
NOx:窒素酸化物 SOx:硫黄酸化物	キューボラ	SOx	m <sup>3</sup> N/h	8.86	0.76	0.224	0.47
		ばいじん	g/m <sup>3</sup> N	0.3	0.009	0.002	0.006
	電気炉	ばいじん	g/m <sup>3</sup> N	0.2	0.002	0.002	0.002
		NOx	ppm	200	20	6	13
	焼鈍炉	ばいじん	g/m <sup>3</sup> N	0.25	0.014	0.002	0.008



## 羽生工場

水質	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
BOD:生物化学的酸素要求量 COD:化学的酸素要求量 SS:懸濁物質 ND:定量下限以下 規制値の( )内は日間平均	排水量	m <sup>3</sup> /日	—	33	0	9
	pH	—	5.8~8.6	7.4	6.8	7.2
	BOD	mg/l	25 (20)	2.7	ND	0.5
	COD	mg/l	160 (120)	3.8	2.1	2.8
	SS	mg/l	60 (50)	ND	ND	ND
	N-Hex(鉱油)	mg/l	5	ND	ND	ND
	窒素	mg/l	60	16	ND	4.9
	亜鉛	mg/l	2	0.2	ND	0.1

大気	施設名	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
NOx:窒素酸化物 SOx:硫黄酸化物	ボイラー重油 (1.2トン)	NOx	ppm	180	95	76	86
		SOx	m <sup>3</sup> N/h	0.493	0.006	0.004	0.005
		ばいじん	g/m <sup>3</sup> N	0.3	0.008	0.003	0.005
	冷温水機	NOx	ppm	180	74	70	72
		SOx	m <sup>3</sup> N/h	0.531	0.011	0.006	0.009
		ばいじん	g/m <sup>3</sup> N	0.3	0.006	0.003	0.005

## 群馬部品センター

水質	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
BOD:生物化学的酸素要求量 SS:懸濁物質 ND:定量下限以下	排水量	m <sup>3</sup> /日	—	13	10	11.1
	pH	—	5.8~8.6	7.5	6.1	6.7
	BOD	mg/l	80	6.5	1.5	5.0
	SS	mg/l	20	6.0	1.0	3.8
	N-Hex(鉱油)	mg/l	1	ND	ND	ND

大気	施設名	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
NOx:窒素酸化物	ボイラー重油 No.1,2,3	NOx	ppm	180	75	56	63
		ばいじん	g/m <sup>3</sup> N	0.2	0.002	0.0	0.001

## PCB保管状況

	上尾工場	鴻巣工場
直列リアクトル(3台)	1,000kg	—
放電線輪(2台)	40kg	—
コンデンサ(46台)	2,300kg	1,647kg
安定器	8,624kg	2,776kg
トランス	7,153kg	25,570kg
合計	19,117kg	29,993kg

※「トランス」は、トランス本体の筐体重量を含めています。

## ISO14001 認証取得状況

1998年度	本社・上尾工場
2002年度	商品開発部門
2004年度	鴻巣工場 *2015年1月グローバル・コンポーネント・テクノロジー(株)に譲渡
2004年度	羽生工場
2005年度	株式会社DRD *2013年6月テンプスタッフ(株)に譲渡
2005年度	株式会社テクサス *2013年7月テンプスタッフ(株)に譲渡
2006年度	株式会社エヌテック
2008年度	株式会社ジャパンビークル *2011年7月UDトラックス(株)に併合
2009年度	株式会社ボルボロジスティクス・コーポレーション・ジャパン *2014年4月UDトラックス(株)に併合

## UDトラックス株式会社

〒362-8523 埼玉県上尾市大字菅丁目1番地  
udtrucks.co.jp